

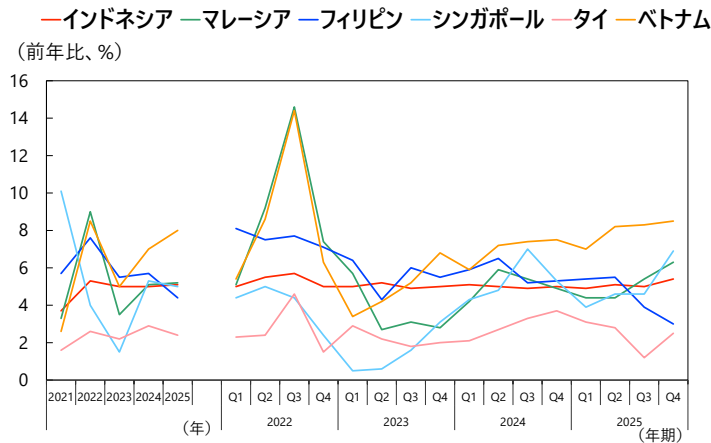
第4節 ASEAN 経済

2025年のASEAN主要6か国の経済は、世界経済の不確実性が高まる中でも世界的な電子機器の需要拡大等を受け、輸出が堅調に推移したことが各国経済を下支えした。一方で、米国の金利高を背景とした通貨安圧力は依然として残り、各国は金融政策の調整を通じて経済のバランスを保っている。また、中東地域の緊張の高まりに伴う原油価格の変動がエネルギーコストを通じて域内経済に影響を与えることが懸念され、先行きには不確実性も残る。

1. GDP

2025年のASEAN主要6か国の成長は、各国で異なる様相を呈した。ベトナムは、半導体を始めとする電子機器やコンピュータ関連の輸出が増加し成長を押し上げた結果、ASEAN主要6か国の中で最も高い成長率を記録した。マレーシアとインドネシアは、成長率は前年並みながらも内需が底堅く推移し成長を支えた。シンガポールは内需に弱さが見られ前年から減速したものの、引き続き5%台の高い成長率を維持した。タイでは財輸出は好調であった一方、個人消費の伸び悩みやインバウンド観光の落ち込みによりサービス輸出がマイナスに転じたことが成長の下押し要因となった。フィリピンでは外需が好調だったものの、投資の鈍化により成長が減速した（第2-1-4-1図、第2-1-4-2表）。以降、各国のGDP成長率について個別に確認していく。

第2-1-4-1図 ASEAN各国の実質GDP成長率推移



備考：各年度のQ1は1月～3月、Q2は4月～6月、Q3は7月～9月、Q4は10月～12月。以下本節において同じ。

資料：各国統計、CEIC databaseから作成。

第2-1-4-2表 ASEAN各国の実質GDP成長率

	2024年	2025年	2025年			
			Q1	Q2	Q3	Q4
インドネシア	5.0	5.1	4.9	5.1	5.0	5.4
マレーシア	5.1	5.2	4.4	4.4	5.4	6.3
フィリピン	5.7	4.4	5.4	5.5	3.9	3.0
シンガポール	5.3	5.0	3.9	4.6	4.6	6.9
タイ	2.9	2.4	3.1	2.8	1.2	2.5
ベトナム	7.0	8.0	7.0	8.2	8.3	8.5

資料：各国統計、CEIC database から作成。

(1) インドネシア

インドネシアの2025年の実質GDP成長率は前年比+5.1%となり、前年（同+5.0%）からわずかに加速した（第2-1-4-3図）。他方、2025年第4四半期の実質GDP成長率は、民間消費と総固定資本形成の伸びを背景に前年同期比+5.4%と13四半期ぶりの高成長となった。

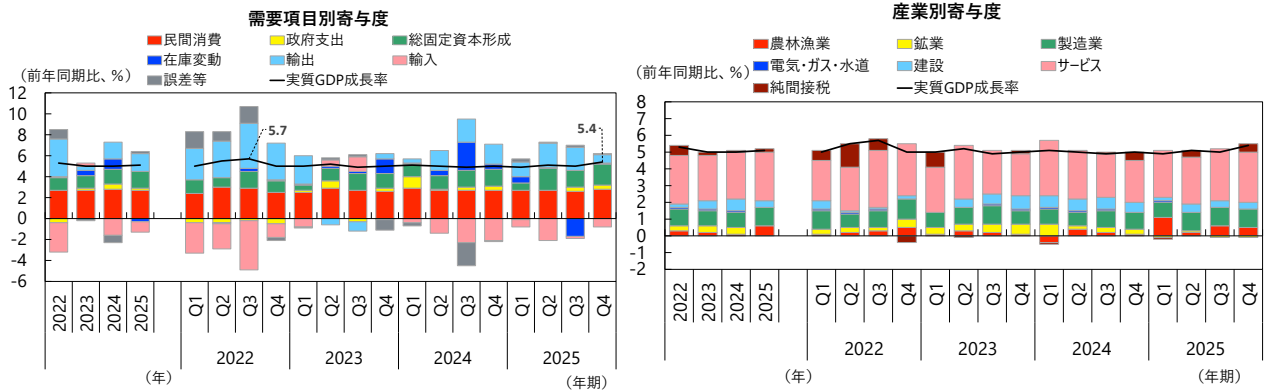
2025年の成長は、民間消費が堅調に推移したほか、総固定資本形成が2018年以来の高い伸びとなったことが寄与した。民間消費については、インドネシア政府が国民の購買力や生活水準維持を目的として行った電力料金割引等の経済刺激策が家計を下支えしたと見られる¹⁰⁷。投資については、インドネシア投資・下流化省のデータによれば、鉱物や基礎金属・金属製品の製造といった鉱物分野への外国直接投資が近年拡大を続けており、2025年1-9月においても前年同期比で加速している¹⁰⁸。

産業別では、ベース効果と良好な気象条件を背景に農林水産業が加速したほか、国内外の需要増に支えられ製造業も加速した。サービスも好調で4年連続で6%を超える成長率を記録した。

¹⁰⁷ インドネシア経済調整省, *Kupas 15 Stimulus Kebijakan di Bidang Ekonomi Untuk Kesejahteraan Masyarakat di Tahun 2025*, <https://www.ekon.go.id/publikasi/detail/6107/kupas-15-stimulus-kebijakan-di-bidang-ekonomi-untuk-kesejahteraan-masyarakat-di-tahun-2025> (Accessed 13 May 2026).

¹⁰⁸ インドネシア投資・下流化省, *Investment Realization Data for the Third Quarter of 2025*, <https://www.bkpm.go.id/en/info/investment-realization> (Accessed 13 May 2026).

第2-1-4-3 図 インドネシアの実質 GDP 成長率（需要項目別及び産業別寄与度）



資料：インドネシア中央統計局、CEIC database から作成。

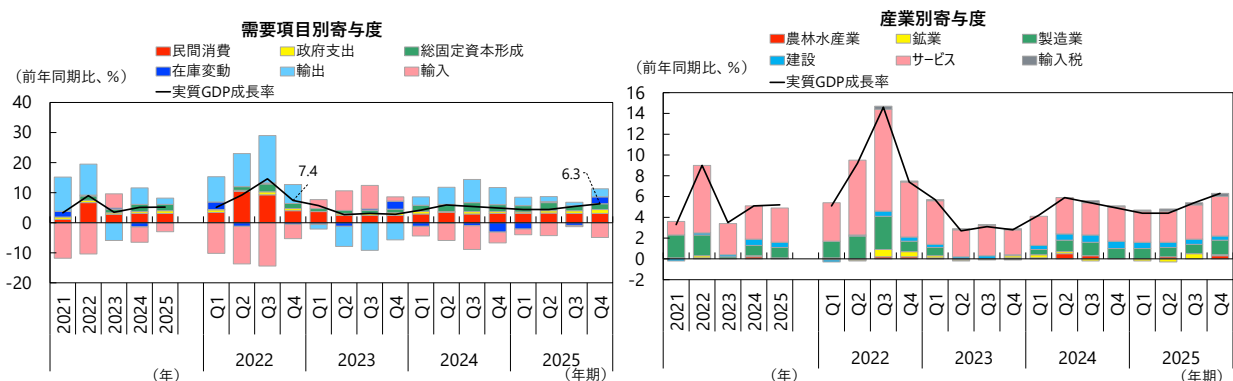
(2) マレーシア

マレーシアの2025年の実質 GDP 成長率は前年比+5.2%となり、前年（同+5.1%）からわずかに加速した（第2-1-4-4 図）。他方、インドネシアと同様に、マレーシアの2025年第4四半期の実質 GDP は、民間消費や政府支出、総固定資本形成といった内需の拡大により前年同期比+6.3%と12四半期ぶりの高成長となった。

2025年の成長について、民間消費は、最低賃金引上げや現金給付などの所得支援策により下支えされた。政府支出は、公務員給与の引上げなどにより大きく伸びた。総固定資本形成は機械設備投資や、民間及び公共部門による建設投資が好調で高い成長率となったものの、前年からは減速した。輸出は財・サービスともに前年に引き続き好調に推移した。マレーシア中央銀行は2025年のアニュアルレポートにおいて、サービス輸出好調の理由をインバウンド観光の回復や、データセンター稼働に伴う ICT 関連サービス輸出の増加と説明している¹⁰⁹。

産業別では、サービスと製造業の成長が全体を押し上げた。サービスは、宿泊業や情報・通信業が好調に推移した。

第2-1-4-4 図 マレーシアの実質 GDP 成長率（需要項目別及び産業別寄与度）



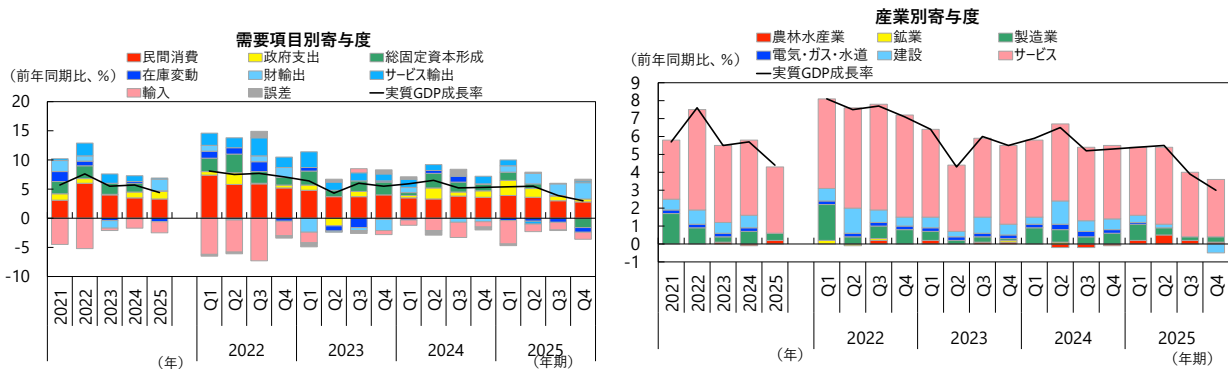
資料：マレーシア統計局、CEIC database から作成。

¹⁰⁹ マレーシア中央銀行, *Economic & Monetary Review 2025*, <https://www.bnm.gov.my/publications/emr2025> (Accessed 13 May 2026).

(3) フィリピン

フィリピンの2025年の実質GDP成長率は前年比+4.4%となり、前年（同+5.7%）から減速した（第2-1-4-5図）。コロナ禍であった2020年を除けば2011年以来の低成長となった。2025年前半は好調な民間消費に支えられ前年同期比+5.4%の成長率を維持したが、年後半は主に政府による建設投資の減速に伴う総固定資本形成の減速を背景に成長率が同+3%台まで減速した。外需は好調であり、2025年の財輸出は2021年以来の高い伸びを記録した。産業別では、サービスが3年連続で減速したものの、引き続き+5%台の高い伸びを維持した。

第2-1-4-5図 フィリピンの実質GDP成長率（需要項目別及び産業別寄与度）



資料：フィリピン統計庁、CEIC database から作成。

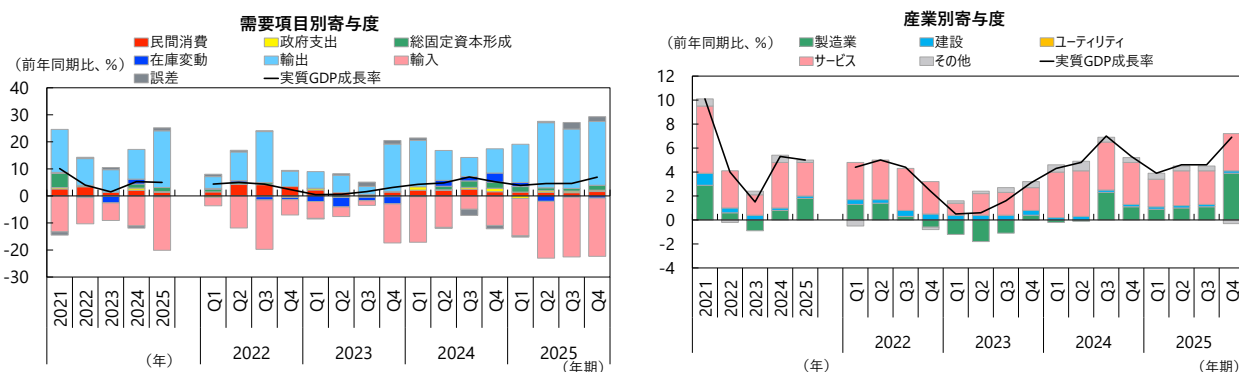
(4) シンガポール

シンガポールの2025年の実質GDP成長率は前年比+5.0%となり、前年（同+5.3%）から減速したものの、引き続き高い成長を維持した（第2-1-4-6図）。

民間消費や政府支出は前年から減速したが、輸出は2025年第1四半期以降年間を通して2桁台となる高い伸びを記録した。主に集積回路やコンピュータの輸出が好調に推移し、輸出全体の伸びを牽引した¹¹⁰。

産業別では、製造業が力強い成長を記録した。

第2-1-4-6図 シンガポールの実質GDP成長率（需要項目別及び産業別寄与度）



資料：シンガポール統計局、CEIC database から作成。

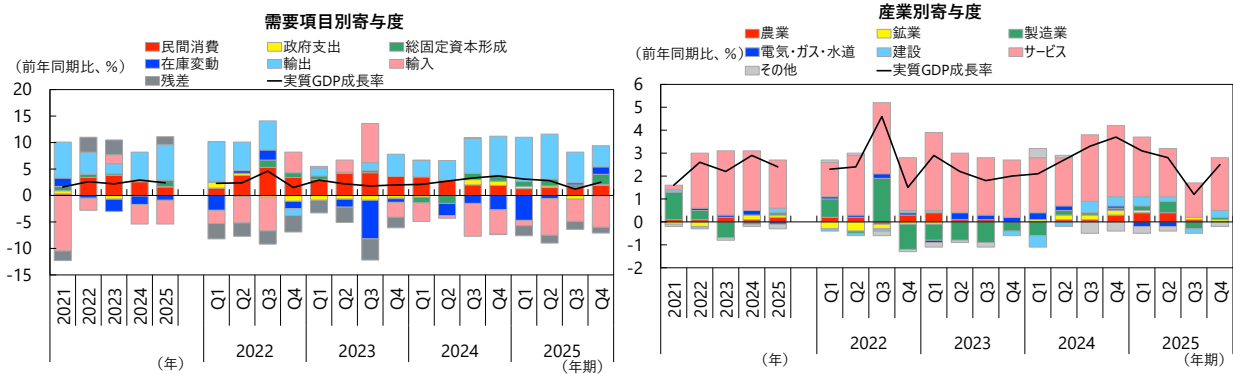
¹¹⁰ シンガポール通商産業省, *An Analysis of Singapore's Nominal Non-Oil Domestic Exports Growth in 2025*, <https://www.mti.gov.sg/resources/economic-survey-of-singapore/economic-survey-of-singapore-and-feature-articles/an-analysis-of-singapore-s-nominal-non-oil-domestic-exports-growth-in-2025/> (Accessed 13 May 2026).

(5) タイ

タイの2025年の実質GDP成長率は前年比+2.4%となり、前年（同+2.9%）から減速した（第2-1-4-7図）。個人消費が伸び悩み、民間消費は2年連続で減速した。投資は堅調で、公共建設投資が大きく伸びたほか、民間設備投資もプラスに転じたことで、総固定資本形成はプラスに転じている。また、世界的な需要拡大を背景に、電気機器や一般機械の輸出が拡大したことで輸出は加速した。タイ商務省が発表した2025年の総輸出額は、過去最高を記録している¹¹¹。

産業別では、好調な輸出を追い風に製造業が3年ぶりにプラスに転じた。サービスは、建設業や卸売・小売業が加速したが、主力の観光業が落ち込んだ影響により減速した。

第2-1-4-7図 タイの実質GDP成長率（需要項目別及び産業別寄与度）



資料：タイ国家経済社会開発委員会、CEIC database から作成。

(6) ベトナム

ベトナムの2025年の実質GDP成長率は、前年比+8.0%となり、前年（同+7.0%）から加速した（第2-1-4-8図）。2022年以来の高成長となった。米国の関税政策により世界経済の不確実性が増す中でありながらも、2025年の輸出は高い伸びを見せた。ベトナム国家統計局のデータによれば、米国向けの電気機器や一般機械の輸出が拡大している¹¹²。

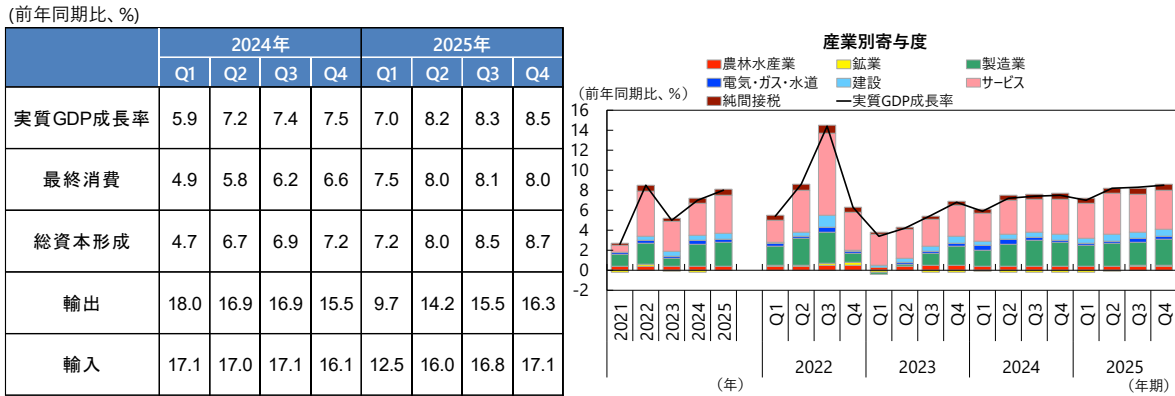
産業別では、好調な外需に支えられ製造業は高成長を記録した。また、過去最高の外国人訪問客数を記録するなど観光業も好調であり、サービスも2022年以来の高成長を記録した¹¹³。

¹¹¹ タイ商務省貿易政策戦略局, *Thailand International Trade on December 2025*, <https://www.tpsa.go.th/document/2601-0000000010> (Accessed 13 May 2026).

¹¹² ベトナム国家統計局, *Exports and imports value by months of 2025*, <https://www.nso.gov.vn/en/data-and-statistics/2025/03/exports-and-imports-value-by-months-of-2025/> (Accessed 13 May 2026).

¹¹³ ベトナム国家統計局, *Press release social-economic situation in the fourth quarter and 2025*, <https://www.nso.gov.vn/en/data-and-statistics/2026/01/press-release-social-economic-situation-in-the-fourth-quarter-and-2025/> (Accessed 13 May 2026).

第2-1-4-8 図 ベトナムの実質 GDP 成長率（需要項目別伸び率及び産業別寄与度）



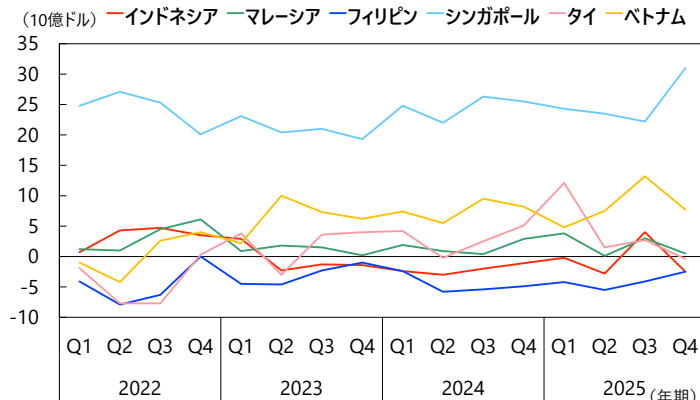
備考：ベトナムは需要項目の四半期データを前年比伸び率のみ公表しているため、寄与度は産業別のみ。
資料：ベトナム国家統計局、CEIC database から作成。

2. 経常収支

ASEAN 各国の 2025 年の経常収支は、好調な財輸出を背景に多くの国で黒字基調が維持されたものの、その動向は国ごとに差が見られた（第2-1-4-9 図）。インドネシアは、非石油・ガスの財貿易黒字の拡大を受けて経常収支の赤字幅が減少した¹¹⁴。マレーシアは、財収支の黒字拡大に加え、サービス輸出の拡大によりサービス収支が黒字に転換し、経常黒字拡大に寄与した。フィリピンは、堅調な輸出を背景に財収支の赤字幅が減少したほか、海外労働者からの送金等により第二次所得収支の黒字幅が拡大したことで、経常収支の赤字幅減少につながった。シンガポールは、財収支の黒字拡大に加え金融サービスを中心としたサービス輸出の拡大により経常黒字が押し上げられた。

一方、タイでは、年初における財・サービス収支の好調を背景に通年では黒字幅が拡大したものの、年後半にかけては、観光収入の伸び悩みや金等の輸入増加を背景に黒字幅の縮小傾向が見られた。ベトナムは、財輸出の拡大に加え、海外送金の増加により第二次所得収支の黒字が拡大したことで経常黒字が拡大した。

第2-1-4-9 図 ASEAN 各国の経常収支の推移



備考：四半期データ。
資料：CEIC database から作成。

¹¹⁴ インドネシア中央統計局, *Exports and Imports of Indonesia in December 2025 reached USD26.35 billion and USD23.83 billion, respectively*, <https://www.bps.go.id/en/pressrelease/2026/02/02/2537/exports-and-imports-of-indonesia-in-december-2025-reached-usd26-35-billion-and-usd23-83-billion-respectively.html> (Accessed 13 May 2026).

3. 貿易

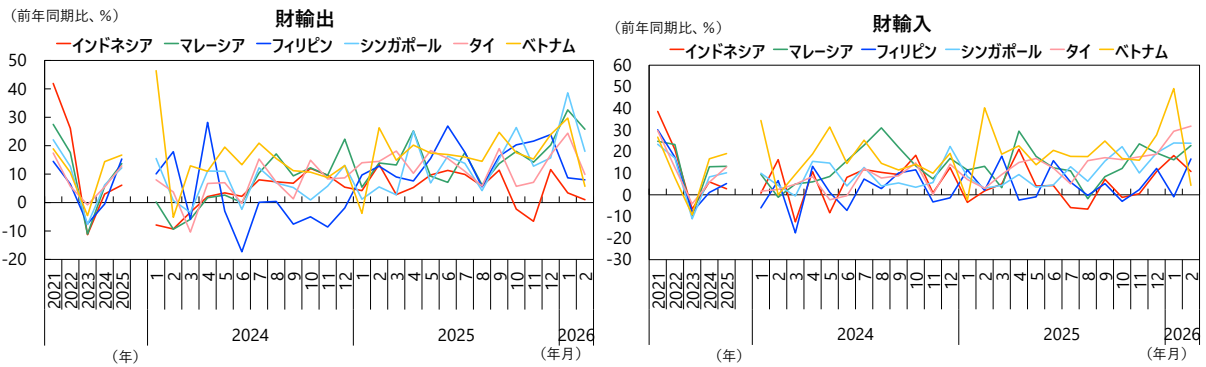
(1) 輸出

2025年のASEAN各国の財輸出は、前年比で全ての国が加速した（第2-1-4-10図）。インドネシアを除く5か国では2桁台の高い伸びとなった。インドネシアは主要輸出品目である鉱物性燃料が前年比で大きく減少したが、油脂（パーム油等）や電気機器の輸出が増加したことで年間の輸出は前年から増加した¹¹⁴。前年比で最も高い伸びを記録したベトナムは、主に米国向けの電気機器等の輸出増加が全体を押し上げた¹¹²。

(2) 輸入

2025年のASEAN各国の財輸入額は、インドネシアを除く全ての国で前年から加速した。インドネシアは鈍化したものの増勢は維持した（第2-1-4-10図）。前年比で最も高い伸びを記録したベトナムは、主に中国からの電気機器や一般機械の輸入増加が全体を牽引した¹¹²。マレーシアは、電気・電子製品の輸入が加速した¹¹⁵。

第2-1-4-10図 ASEAN各国の財の輸出入



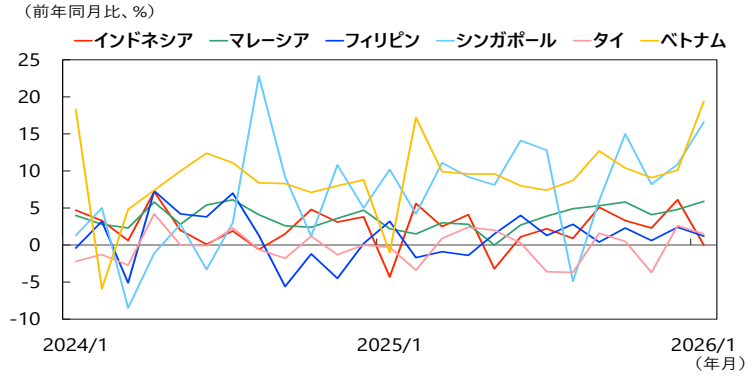
資料：CEIC database から作成。

4. 生産活動

ASEAN各国の鉱工業生産は、国別・産業別でばらつきが見られた（第2-1-4-11図）。シンガポールは、半導体の生産が大きく伸びたほか、航空宇宙（整備・修理等含む）の生産も拡大した（第2-1-4-12図）。タイでは、2025年前半は自動車やコンピュータ・電子機器等が、同年後半は石炭・石油製品や機械・部品が弱含んだことで、2025年の鉱工業生産指数は、プラス成長とマイナス成長が混在する不安定な動きとなった。ベトナムでは、自動車・トレーラーや基本金属の生産が好調だった。

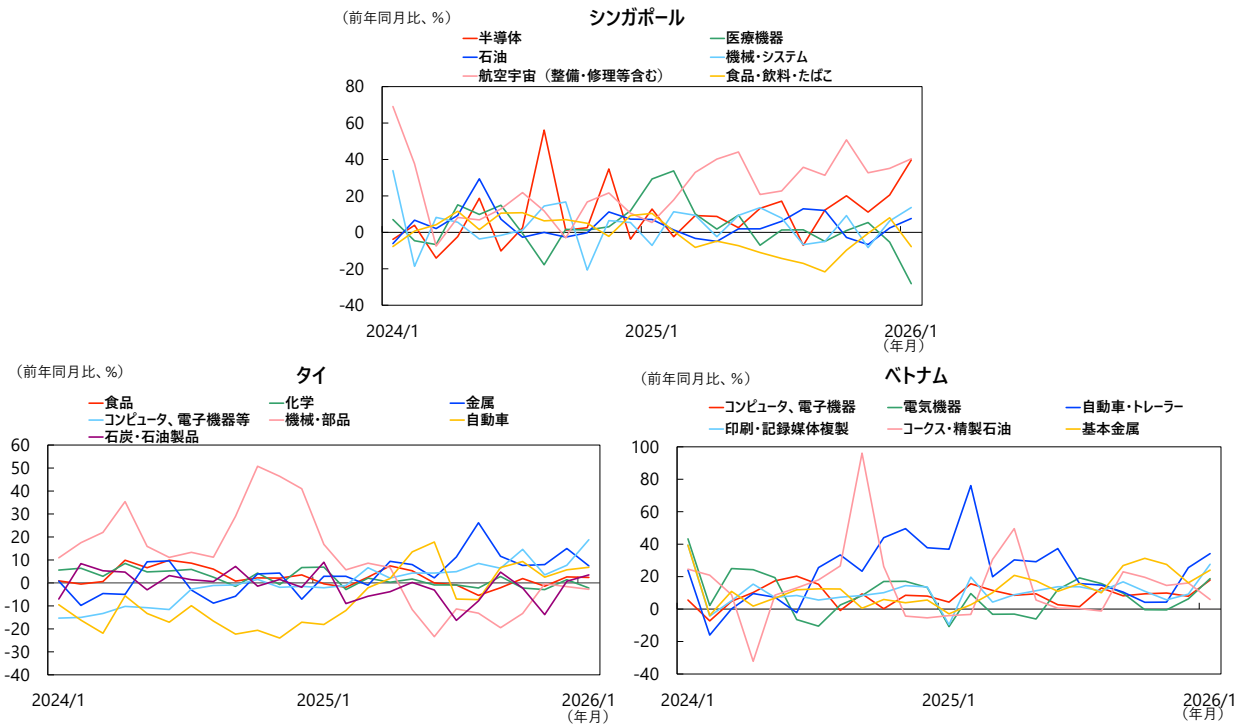
¹¹⁵ マレーシア統計局, *Malaysia External Trade Statistics*, <https://www.dosm.gov.my/portal-main/release-content/monthly-external-trade-statistics-december-2025> (Accessed 13 May 2026).

第2-1-4-11 図 ASEAN 各国の鉱工業生産指数



資料：CEIC database から作成。

第2-1-4-12 図 シンガポール、タイ、ベトナムの産業別鉱工業生産指数



資料：CEIC database から作成。

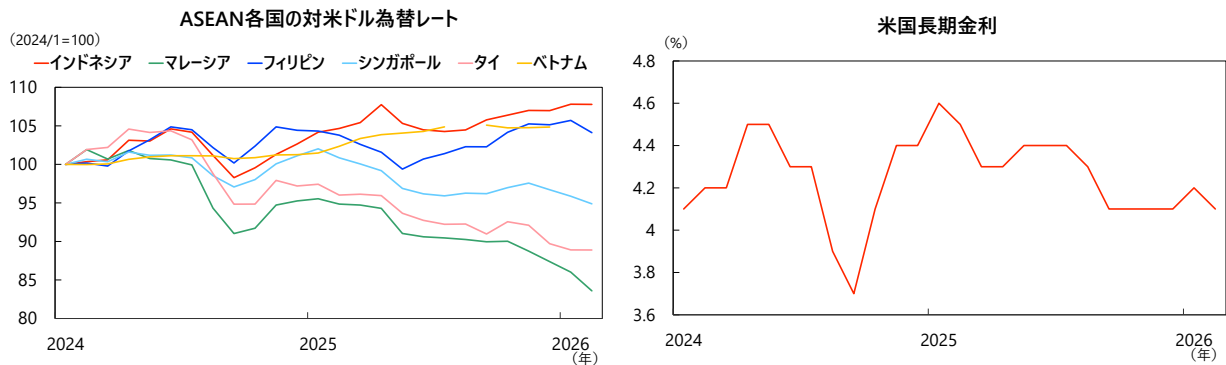
5. 通貨

2025 年の ASEAN 各国の対米ドル為替動向は、高水準の米国長期金利によるドル高圧力を受ける中、通貨ごとに異なる動きを見せた（第2-1-4-13 図）。マレーシア・リンギットは経常収支黒字の維持や好調な資本流入を背景に年間を通じて増価基調で推移した。タイ・バーツは一時的に減価する局面が見られたが、その後は増価に転じた。シンガポール・ドルは好調な外需を背景に対米ドルでは相対的に強含んだ。フィリピン・ペソは年初から前半にかけては底堅く推移したものの、その後は経常収支赤字などを背景に減価圧力が強まった。インドネシア・ルピアやベトナム・ドン是对米ドルでは減価圧力が見られ、ドンは管理フロート制¹¹⁶のもと緩やかな減価基調で推移した。ルピアの減価圧力に対しては、イ

¹¹⁶ 自国通貨の変動幅を固定し、その幅の範囲内で各国通貨が取引される制度のこと。通貨の変動幅は、ベトナム中央銀行によって管理されるため、急速な為替変動を避けることができる。

インドネシア中央銀行は為替介入により通貨安定化措置を実施し、為替レートの安定化維持に注力している¹¹⁷。

第 2-1-4-13 図 ASEAN 各国の対米ドル為替レートと米国の長期金利



備考：各国通貨は数値の上昇が対ドルでの下落を示す。米国長期金利は、10 年国債利回りを参照。
資料：CEIC database から作成。

6. 物価・金融政策動向

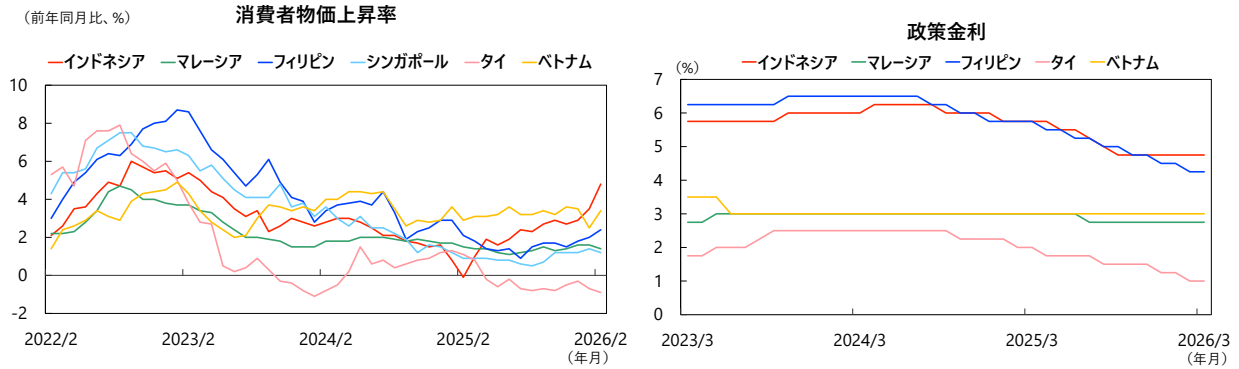
2025 年の ASEAN 各国における消費者物価は、インフレ高進が一巡し、前半にかけては落ち着いた動きとなった（第 2-1-4-14 図）。多くの国でインフレ率は低下し、中央銀行の目標レンジ内で推移したが、2025 年後半から 2026 年前半にかけては通貨安やエネルギー価格の動向を背景に一部の国では上昇する動きも見られた。なお、インドネシアにおける 2026 年 2 月の物価上昇は、2025 年 2 月に実施された電気料金割引の終了に伴うベース効果によるものである¹¹⁸。

こうした物価動向を受け、金融政策は緩和方向へのシフトが見られたものの、米金利が高水準で推移する中で通貨安圧力も意識され、緩和のペースは慎重なものとなった。インドネシアやフィリピン、タイでは断続的に利下げが実施された一方、マレーシアやベトナムではおおむね据え置かれた。

¹¹⁷ インドネシア中央銀行, *BI-Rate Held at 4.75%: Maintaining Stability, Strengthening Economic Growth*, https://www.bi.go.id/en/publikasi/ruang-media/news-release/Pages/sp_2727425.aspx (Accessed 13 May 2026).

¹¹⁸ インドネシア中央統計局, *BPS: Electricity Tariff Normalization and Gold Price Inflation Main Drivers of February 2026 Inflation*, <https://www.bps.go.id/en/news/2026/03/03/872/bps--electricity-tariff-normalization-and-gold-price-inflation-main-drivers-of-february-2026-inflation.html> (Accessed 13 May 2026).

第2-1-4-14 図 ASEAN 各国の消費者物価上昇率と政策金利の推移



備考：各国の政策金利はそれぞれ次のとおり：インドネシア：BI7 日間リバースレポ金利、マレーシア：翌日物政策金利、フィリピン：翌日物リバースレポ金利、タイ：翌日物レポ金利、ベトナム：公定歩合。シンガポールは政策金利なし。

資料：各国中央銀行、CEIC database から作成。

7. 今後の見通しと政府の政策

2026年4月に発表されたIMFによる経済見通しによれば、2026年のASEAN各国の実質GDP成長率の見通しは、いずれの国も2025年から減速する見通しとなっている。2027年にかけては、フィリピン及びタイで持ち直しが見込まれる一方、インドネシアはおおむね横ばい、マレーシア、シンガポール、ベトナムでは減速が続くと予測されている。

2026年1月時点の見通しからの修正では特にフィリピンの下方修正が大きく、IMFはその理由について、中東地域の緊張の高まりが、2025年のフィリピンにおける公共投資の減少等に伴うマイナス基調を更に悪化させると指摘している¹¹⁹（第2-1-4-15表）。

第2-1-4-15表 ASEAN 各国の実質GDP成長率の見通し

前年比 (%)	2025年(実績)	2026年	2027年
インドネシア	5.1	5.0	5.1
マレーシア	5.2	4.7	4.3
フィリピン	4.4	4.1	5.8
シンガポール	5.0	3.5	2.7
タイ	2.4	1.5	2.1
ベトナム	8.0	7.1	6.7

資料：IMF「WEO」（2026年4月）から作成。

¹¹⁹ IMF, *WORLD ECONOMIC OUTLOOK, April 2026*, <https://www.imf.org/-/media/files/publications/weo/2026/april/english/text.pdf> (Accessed 13 May 2026).